

ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ
(2024年3月25日(月)～31日(日))

岸和田聖書教会
牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまを食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしましょう。

3月25日(月)

今日の聖書日課：マタイ 26:57～75

イエスは彼に言われた。「あなたが言ったとおりです。しかし、わたしはあなたがたに言います。あなたがたは今から後に、人の子が力ある方の右の座に着き、そして天の雲とともに来るのを見ることとなります。」

マタイ 26:64

ユダヤ人議会(最高法院)で裁判にかけられたイエス。どんな不利な偽証をされても「何も答えない」イエス(62)。しかし大祭司が「私は生ける神によっておまえに命じる。おまえは神の子キリストなのか、答えよ」(63)と言ったとき、主は口を開かれました。「あなたが言ったとおり」キリストである。それだけでなく、ご自分の再臨についても語られました。主は真実をまっすぐに語られたゆえに「この男は神を冒瀆した」(65)と判断され、やがて死刑に定められたのです。

正しいことをそのとおりに語る時、そのことのために自分が不利な状況に陥ることを知ってもなお進んで行ったイエス。実に彼は、これを信じない人たちの、あなたの私のその不信の罪のために、その赦しのために身代わりに死んで下さったのです。

3月26日(火)

今日の聖書日課：マタイ 27:1～10

「私は無実の人の血を売って罪を犯しました。」しかし、彼らは言った。「われわれの知ったことか。自分で始末することだ。」

マタイ 27:4

イエスを裏切った(引き渡した)ユダは後悔しました。イエスが死刑に定められたのを知ったからです。そしてついさっき受け取った銀貨30枚を差し出して、冒頭の聖句のように言いました。しかし返って来た答えは「われわれの知ったことか」。ユダはひとりにされたのです。少なくともこれまで祭司長・律法学者たちは自分とともにいた、と考えていた人たちでした。しかし手のひらを返されたように急にこのように言われました。そして孤独に陥ったユダは、手にしていた銀貨を神殿に投げ込み、出て行って自害したのです(5)。孤独の恐ろしさを思い知らされます。でも覚えてください。主イエスを信じるあなたはひとりではありません。

3月27日（水）

今日の聖書日課：マタイ 27：11～26

しかし祭司長たちと長老たちは、バラバの釈放を要求してイエスを殺すよう、群衆を説得した。

マタイ 27：20

この「群衆」とは、数日前、ろばに乗ってエルサレムに入城したイエスに対して「ホサナ、ダビデの子に…」(9) と叫んだあの「群衆」(21：9) でした。祭司長たちと長老たちが「説得した」とありますが、そんな簡単に変わるのか？ 変わるのです。自分たちが期待したメシア（キリスト）：軍事力でローマを倒すヒーローではない、とわかると手のひらを返したように「十字架につけろ」と言ったのです(22、23)。

自分の望む神を信じるのではありません。イエスご自身があなたの希望なのです。

3月28日（木）

今日の聖書日課：マタイ 27：27～44

兵士たちが出て行くと、シモンという名のクレネ人に出会った。彼らはこの人に、イエスの十字架を無理やり背負わせた。

マタイ 27：32

なんというアンラッキー。シモンはイエスの十字架を無理やり背負わされました。

なというラッキー。シモンはイエスとともに十字架の道を歩きました。それが全世界の、そしてだれよりもシモン自身の救いとなったのです。

3月29日（金） 午前6：30 から受難日祈禱会を行います。

今日の聖書日課：マタイ 27：45～56

三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

マタイ 27：46

ゲツセマネの園でイエスが祈った「この杯」(26：39) とはこのこと。すなわち父なる神に見捨てられること。しかし、これによって、私たちは、人間は、罪人は、絶対に見捨てられないのです。どこにいても、何が起こっても。

3月30日（土）

今日の聖書日課：マタイ 27：57～66

ヨセフはからだを受け取ると、きれいな亜麻布に包み、岩を掘って造った自分の新しい墓に納めた。そして墓の入り口に大きな石を転がしておいて、立ち去った。

マタイ 27：59

アリマタヤ出身の金持ちのヨセフ。イエスの弟子でしたがそれを隠していた人(ヨハネ 19:38)。しかしイエスの死を知り、イエスの埋葬をしようと決心しました。そして丁寧にイエスの遺体を葬りました。でももう遅いのです。死んでしまったのですから。

しかし、このヨセフの葬りは意味のないことではありませんでした。彼がしたことはイエスの復活の道備えとなったのです。

「もう遅い」ということはないのです。復活の主イエス・キリストを信じる私たちにとって、「今」は、立ち返って歩み始めるときなのです。

3月31日（日） イースター礼拝説教箇所：マタイ 28：1～10 「死が恐くない理由」

川北美加さんと神藤恵里子さんのバプテスマ式もあります。主の復活を祝いましょう！